起　案　用　紙

記号番号	建環生 第　177 号	特殊取扱	公布・告示・公印省略・公印刷込 その他（　　）		
起案日	令和 8 年 07 月 15 日	公印使用確認		保存期間	5年
決裁日	令和 8 年 7 月 22 日				
施行日	令和 8 年 8 月 1 日	公開の可否	公開		
所属	環境保全課生活環境係	起案者職氏名	主査補 木津川 芳秀　印		
文書分類（ガイド）	F　-08　-01 住民 -環境 -環境保全	個別フォルダ名（ファイル）	054 ＣＣＳ事業（一般文書）		

			部長	参事	課長	主幹	補佐等	副主幹	
決									
議	合議						係		

あて	市民の皆様へ	発	山武市長　小野﨑　正喜
件名	首都圏CCS事業者が発行する情報誌「うみとみらい通信第２号」の情報提供について		

（伺い）

首都圏ＣＣＳ株式会社において、８月１日に「うみとみらい通信第２号」の発行を予定しています。

このため、７月１日発行の第１号に続き、市広報紙と同梱のうえ全戸配布してよろしいか伺います。

記

1　配布方法

　シルバー人材センターによる各戸配布（市広報紙と同梱による）

2　配布時期

　令和８年８月初旬（広報さんむ８月号と同期）

　※事業者がシルバー人材センターへ直接納品

（裏面に続く）

3　特記仕様

市かがみ文を掲載したチラシ形式（Ａ３版両面印刷）、20,700部

4　経費負担

首都圏ＣＣＳ㈱が全て負担（印刷、配送委託料等）

※7/23 P校正、7/27 シルバー人材センターへ納品

※首都圏CCS(株)、国(METI, JOGMEC)
に内容確認済

（案）

建環生第１７７号
令和８年８月１日

市民の皆様へ

山武市長　小野﨑　正喜
（公印省略）

首都圏ＣＣＳ事業者が発行する情報誌「うみとみらい通信第２号」
の情報提供について

日頃は、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
さて、首都圏ＣＣＳ事業者が発行する「うみとみらい通信」について、７月に発行の第１号に続き、第２号が発行されましたのでお届けします。

■CCS とは
「CCS」とは、「Carbon dioxide Capture and Storage」の略で、日本語では「二酸化炭素回収・貯留」技術と呼ばれます。鉄鋼業や化学工場、発電所等から排出された二酸化炭素を他の気体から分離して集め、パイプラインや船舶で輸送し地中深くに貯留する技術で、大気への二酸化炭素排出削減が可能です。

■首都圏 CCS 事業とは
国では、2050 年カーボンニュートラル実現のための方策の一つとして CCS を掲げています。
2024 年６月に、首都圏 CCS 事業は独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構が支援する「先進的 CCS 事業」9 案件の一つとして選定されました。本事業は、千葉県内房の京葉臨海工業地帯で、主に鉄鋼業等の重工業で生じる二酸化炭素をパイプラインで輸送し、九十九里沖の海底下に貯留する事業です。

■首都圏 CCS 事業の進捗状況
2025 年９月に、国は地中に貯留層が存在する可能性がある区域として、九十九里沖を「特定区域」に指定のうえ、試掘を実施する特定事業者の公募を行いました。首都圏 CCS 株式会社はこれに応募し、2026 年４月に経済産業大臣から試掘の許可を受けています。
現在は、2026 年７月から 2027 年１月にかけて、九十九里沖海底下の試掘調査が計画されています。

■「うみとみらい通信」の配布、コミュニケーションセンターの開設について
「うみとみらい通信」は、首都圏 CCS 株式会社が、試掘区域に隣接する市町住民への情報発信として刊行しています。市では、皆様への速やかな情報提供のため、事業者と協議のうえ、市広報紙と同梱し全戸配布しています。
また、同社にて、地域住民への情報発信および対話の場として、コミュニケーションセンター「うみとみらい」を開設していますので、併せてお知らせします。

住所：〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関 2347-98 地先（海の駅 九十九里 第二駐車場横）
開館時間：10 時～16 時　休館日：火曜日、水曜日、年末年始

→別紙案を参照ください。

「うみとみらい通信」
のバックナンバーは、
こちらから閲覧できます。
市ホームページ

○市所管部署
建設環境部 環境保全課
Tel：0475-80-1161、Mail：kankyohozen@city.sammu.lg.jp

■■■　首都圏ＣＣＳ事業に関する問合せ先　■■■
首都圏ＣＣＳ株式会社　社会共生ユニット
TEL：03-5572-0711
Mail：metroccs.inquiry@inpex.co.jp

第2号

うみとみらい通信

2026年8月1日発行

九十九里沖でCCS地下調査を開始

首都圏CCS株式会社

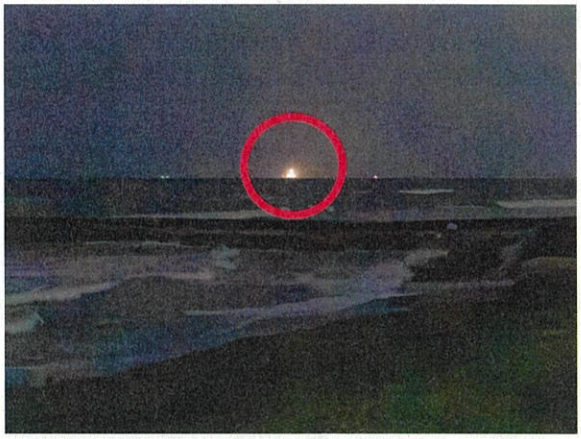
うみとみらい通信について

私たちは、九十九里沖でCCS「二酸化炭素（CO_2）を地下に閉じ込める技術」が安全に実施できるかを確認するための調査を進めています。
地域の皆さまから、「どんな調査なの？」「安全なの？」といったご質問をいただいています。この通信では、調査の内容や進み具合、安全への取り組みについて分かりやすくお伝えしていきます。

今月のトピックス

- ✓ 7月6日に1本目の地下調査を開始しました
- ✓ 調査用の井戸を掘り、地下の状態を調べます

掘削装置(近くから見た様子)



掘削装置(夜の野手浜海岸からの様子)

今回の調査は何のため？

CO_2を地下に安全に長期間、閉じ込めるためには、それに適した地層の存在を確認する必要があります。そのために、調査用の井戸を掘り、地下の状態を調べます。

地下調査(現時点) → 安全性を確認 → CO_2貯留能力の調査

まずお伝えしたいこと

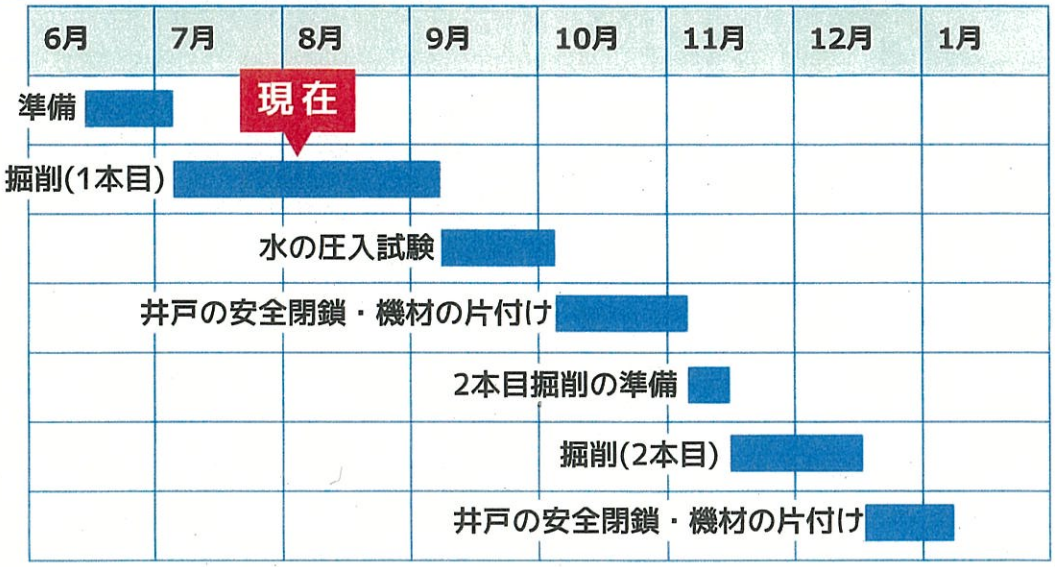
- ✓現在は調査段階です
- ✓CO_2の地下貯留は行っていません
- ✓安全を最優先に作業を進めています

CCSとは

二酸化炭素（CO_2）を分離・回収し、地下深くに閉じ込める技術のことです。
大気中のCO_2を地下に閉じ込めることから、地球温暖化対策に有効な技術といわれています。

今はどこまで進んでいるの？

2026年7月から1本目(沖合約5㎞)の調査が始まりました。
今後は2本目(沖合約13㎞)の調査も実施し、地下の状態を詳しく確認していきます。



Q. もうCO_2を地下に入れているの？

いいえ。
現在は地下の状態を調べる段階であり、CO_2を入れる作業は行っていません。

Q. 掘削装置では何人が働いているの？

約100-120名の作業員が昼夜交代で安全を第一に働いています。

Q. 地下調査中に発生したゴミは？

掘くず、泥水、ゴミなどは船で鹿島港まで輸送し、産業廃棄物として処理します。
海洋投棄は行いません。

地域の皆さまへ
調査の状況や安全への取り組みは、今後も「うみとみらい通信」やコミュニケーションセンター「うみとみらい」（海の駅 九十九里 第二駐車場横、10時～16時、休館日：火曜日、水曜日、年末年始）を通じてお伝えしていきます。
「うみとみらい」には、スタッフも常駐しておりますので、ご不明な点やご心配なことがありましたら、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

今月の豆知識

Q. 地下調査ではどんな装置を使うの？
A.「掘削(くっさく)装置」を使用します。総重量は約2万トン(乗用車約1万台分)と非常に重たいんです！

発行：首都圏CCS株式会社 社会共生ユニット
千葉県千葉市中央区問屋町1-35
お問い合わせ：03-5572-0711
https://mccs.inpex.co.jp/contact/form.php

（参照）市HP案 R8.8.1までに掲載　※首都圏CCS、国（METI, JOGMEC）に確認済（冒頭文を除く）

ＨＰ案／VER.2（MCCS 加筆）ＭＥＴＩ修正

二酸化炭素の回収・貯留事業（ＣＣＳ事業）について

国では、2021年に「第6次エネルギー基本計画」を閣議決定し、2050 年カーボンニュートラル実現の方策の一つとして CCS を掲げ、2024 年５月には「CCS 事業法」が成立しています。

この法整備により、CCS の事業化へ向けた動きが始まり、2024 年に「先進的 CCS 事業」９案件の一つとして、「首都圏 CCS」が選定され、実施可否について検討されています。

市では、この「首都圏 CCS 事業」が、九十九里沖海底に二酸化炭素を貯留する事業であることから、重要な案件として関連情報をお知らせするものです。

○目次

➢CCS とは
➢首都圏 CCS 事業とは
➢首都圏 CCS 事業の進捗状況
➢首都圏 CCS 事業者が発行する情報誌「うみとみらい通信」
➢首都圏 CCS 事業者が開設する CCS コミュニケーションセンター「うみとみらい」
➢関連リンク

○CCS とは

「CCS」とは、「Carbon dioxide Capture and Storage」の略で、日本語では「二酸化炭素回収・貯留」技術と呼ばれます。

鉄鋼業や化学工場、発電所等から排出された二酸化炭素を他の気体から分離して集め、パイプラインや船舶で輸送し地中深くに貯留する技術で、大気への二酸化炭素排出削減が可能です。

日本では、北海道苫小牧で CCS の実証実験が実施され、2016-2019 年に二酸化炭素を貯留しました。

○首都圏 CCS 事業とは

2024 年６月に、首都圏 CCS 事業は独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構が支援する「先進的 CCS 事業」９案件の一つとして選定されました。

この首都圏 CCS 事業は、千葉県内房の京葉臨海工業地帯で、主に鉄鋼業等の重工業で生じる二酸化炭素をパイプラインで輸送し、九十九里沖の海底下に貯留する事業です。

○首都圏 CCS 事業の進捗状況

2025 年９月に、国は事業化可否を検討するうえで、地中に貯留層が存在する可能性がある区域として、九十九里沖を「特定区域」に指定のうえ、試掘を実施する特定事業者の公募を行いました。首都圏 CCS 株式会社はこれに応募し、2026 年４月に経済産業大臣から試掘の許可を受けています。

現在は、2026 年７月から 2027 年１月にかけて、九十九里沖海底下の試掘調査が計画されています。なお、本調査は地下の状況を調べる段階であり、二酸化炭素を地下に入れる作業は行いません。

○首都圏 CCS 事業者が発行する情報誌「うみとみらい通信」について

首都圏 CCS 事業者において、試掘区域に隣接する市町住民への情報発信として、令和８年７月１日に「うみとみらい通信第１号」を創刊し、以降も定期的な発行が予定されています。

市では、皆様への速やかな情報提供のため、事業者と協議のうえ、この情報誌を全戸配布することとしました。

配布方法は、市広報紙と同梱による全戸配布となります。

「うみとみらい通信第１号（R8.7.1 発行）」〔PDF 形式/1.07MB〕
「うみとみらい通信第２号（R8.8.1 発行）」〔PDF 形式/1.07MB〕

○首都圏 CCS 事業者が開設する CCS コミュニケーションセンター「うみとみらい」について

首都圏 CCS 事業者では、地域住民への情報発信および対話の場として、コミュニケーションセンター「うみとみらい」を開設しています。

本センターは、首都圏 CCS の取り組みや安全対策等について、分かりやすくご紹介するとともに、地域住民との双方向のコミュニケーションの場として活用していくことを目的としています。

住所：〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関 2347-98 地先（海の駅 九十九里 第二駐車場横）
開館時間：10 時～16 時
休館日：火曜日、水曜日、年末年始

○関連リンク　リンク先には、首都圏CCSから連絡済

CCS 政策について｜資源エネルギー庁
＜経済産業省・資源エネルギー庁のホームページへ＞

CCS：事業紹介｜独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構［JOGMEC］
＜独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構のホームページへ＞
※ 国のエネルギー政策に基づき、ＣＣＳなどの調査・技術支援を行う国の機関

二酸化炭素の回収・貯留事業（CCS 事業）に関すること／千葉県
＜千葉県のホームページへ＞

首都圏 CCS 株式会社
＜首都圏 CCS 事業者のホームページへ＞

※配付時のページ構成イメージ（第1号と同じです）

建環生第１７７号
令和８年８月１日

市民の皆様へ

山武市長　小野﨑　正喜
（公印省略）

首都圏ＣＣＳ事業者が発行する情報誌「うみとみらい通信第２号」
の情報提供について

日頃は、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
さて、首都圏ＣＣＳ事業者が発行する「うみとみらい通信」について、７月に発行の第１号に続き、第２号が発行されましたのでお届けします。

■CCS とは
「CCS」とは、「Carbon dioxide Capture and Storage」の略で、日本語では「二酸化炭素回収・貯留」技術と呼ばれます。鉄鋼業や化学工場、発電所等から排出された二酸化炭素を他の気体から分離して集め、パイプラインや船舶で輸送し地中深くに貯留する技術で、大気への二酸化炭素排出削減が可能です。

■首都圏 CCS 事業とは
国では、2050 年カーボンニュートラル実現のための方策の一つとして CCS を掲げています。
2024 年６月に、首都圏 CCS 事業は独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構が支援する「先進的 CCS 事業」9 案件の一つとして選定されました。本事業は、千葉県内房の京葉臨海工業地帯で、主に鉄鋼業等の重工業で生じる二酸化炭素をパイプラインで輸送し、九十九里沖の海底下に貯留する事業です。

■首都圏 CCS 事業の進捗状況
2025 年９月に、国は地中に貯留層が存在する可能性がある区域として、九十九里沖を「特定区域」に指定のうえ、試掘を実施する特定事業者の公募を行いました。首都圏 CCS 株式会社はこれに応募し、2026 年４月に経済産業大臣から試掘の許可を受けています。
現在は、2026 年７月から 2027 年１月にかけて、九十九里沖海底下の試掘調査が計画されています。

■「うみとみらい通信」の配布、コミュニケーションセンターの開設について
「うみとみらい通信」は、首都圏 CCS 株式会社が、試掘区域に隣接する市町住民への情報発信として刊行しています。市では、皆様への速やかな情報提供のため、事業者と協議のうえ、市広報紙と同梱し全戸配布しています。
また、同社にて、地域住民への情報発信および対話の場として、コミュニケーションセンター「うみとみらい」を開設していますので、併せてお知らせします。

住所：〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関 2347-98 地先（海の駅 九十九里 第二駐車場横）
開館時間：10 時～16 時　休館日：火曜日、水曜日、年末年始

○市所管部署
建設環境部 環境保全課
Tel：0475-80-1161、Mail：kankyohozen@city.sammu.lg.jp

「うみとみらい通信」のバックナンバーは、こちらから閲覧できます。
市ホームページ

■■■　首都圏ＣＣＳ事業に関する問合せ先　■■■
首都圏ＣＣＳ株式会社　社会共生ユニット
TEL：03-5572-0711
Mail：metroccs.inquiry@inpex.co.jp

第2号

うみとみらい通信

2026年8月1日発行

九十九里沖でCCS地下調査を開始

首都圏CCS株式会社

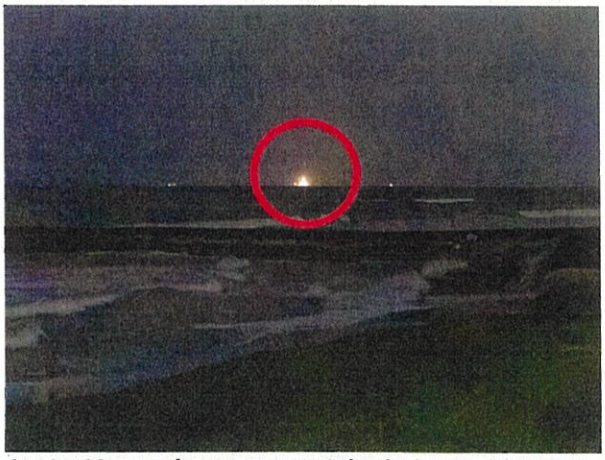
うみとみらい通信について

私たちは、九十九里沖でCCS「二酸化炭素（CO_2）を地下に閉じ込める技術」が安全に実施できるかを確認するための調査を進めています。
地域の皆さまから、「どんな調査なの？」「安全なの？」といったご質問をいただいています。この通信では、調査の内容や進み具合、安全への取り組みについて分かりやすくお伝えしていきます。

今月のトピックス

- ✓ 7月6日に1本目の地下調査を開始しました
- ✓ 調査用の井戸を掘り、地下の状態を調べます

掘削装置(近くから見た様子)



掘削装置(夜の野手浜海岸からの様子)

今回の調査は何のため？

CO_2を地下に安全に長期間、閉じ込めるためには、それに適した地層の存在を確認する必要があります。そのために、調査用の井戸を掘り、地下の状態を調べます。

地下調査(現時点) → 安全性を確認 → CO_2貯留能力の調査

まずお伝えしたいこと

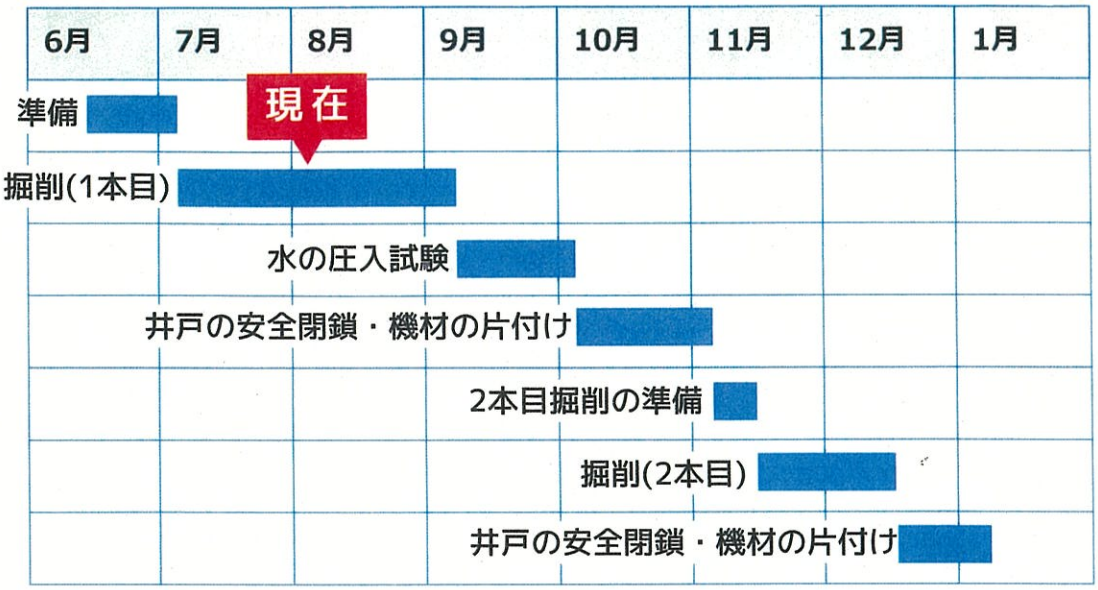
- ✓現在は調査段階です
- ✓CO_2の地下貯留は行っていません
- ✓安全を最優先に作業を進めています

CCSとは

二酸化炭素（CO_2）を分離・回収し、地下深くに閉じ込める技術のことです。
大気中のCO_2を地下に閉じ込めることから、地球温暖化対策に有効な技術といわれています。

今はどこまで進んでいるの？

2026年7月から1本目(沖合約5㎞)の調査が始まりました。
今後は2本目(沖合約13㎞)の調査も実施し、地下の状態を詳しく確認していきます。



Q. もうCO_2を地下に入れているの？

いいえ。
現在は地下の状態を調べる段階であり、CO_2を入れる作業は行っていません。

Q. 掘削装置では何人が働いているの？

約100-120名の作業員が昼夜交代で安全を第一に働いています。

Q. 地下調査中に発生したゴミは？

掘くず、泥水、ゴミなどは船で鹿島港まで輸送し、産業廃棄物として処理します。
海洋投棄は行いません。

地域の皆さまへ

調査の状況や安全への取り組みは、今後も「うみとみらい通信」やコミュニケーションセンター「うみとみらい」（海の駅 九十九里 第二駐車場横、10時～16時、休館日：火曜日、水曜日、年末年始）を通じてお伝えしていきます。
「うみとみらい」には、スタッフも常駐しておりますので、ご不明な点やご心配なことがありましたら、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

今月の豆知識

Q. 地下調査ではどんな装置を使うの？
A.「掘削(くっさく)装置」を使用します。総重量は約2万トン(乗用車約1万台分)と非常に重たいんです！

発行：首都圏CCS株式会社 社会共生ユニット
千葉県千葉市中央区問屋町1-35
お問い合わせ：03-5572-0711
https://mccs.inpex.co.jp/contact/form.php